

＜過去1週間の動き＞

(4月7日～4月13日)

USD/ZAR: 14.4450～14.8125
ZAR/JPY: 8.36～8.73 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルでは6ヵ月ぶりの、対円では46ヵ月ぶりの高値水準にあって堅調推移。ランド堅調は、とりわけ、①ドル全面高基調にあって ②南ア資産(株式/国債)の値動きが冴えず ③発表された南ア経済指標(下記)が相次いで大幅に下振れる逆風の中進んでおり、見方によっては「目覚ましい」ランド堅調と受け止めることもできた。ドル全面高は、引き続き、米連銀による金融政策正常化(利上げ/バランスシート縮小)が(現在までの市場の織り込み以上に)加速するとの思惑と米長期金利の上昇/高止まりを背景に、この間、とりわけ対円でのドル高にけん引された感が強かった。円側には、黒田総裁が「必要なら躊躇なく追加緩和する(11日)」と述べるなど、米連銀の金融引き締め観測とは対照的な日銀の金融緩和(金融引き締めには腰が引けた)姿勢という円安要因があった。ランド堅調の背景については、④南ア準備銀利上げに対する期待感 ⑤ラマポーザ大統領による各種改革の進捗に対する期待感 ⑥原油価格の頭打ちなど、敢えて探せばそれらしい要因を見つけることはできた。ただし、ランド堅調を支えた最大の要因は、円全面安の余波で、46ヵ月ぶりの高値を更新したランド/円の続騰にあったように思われた。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
4/7	6:00	総外貨準備高(USD)	3月	58.16bn		57.69bn
4/8	9:30	企業景況感指数	3月	95.6		96.9
4/11	11:00	製造業生産(前年比)	2月	+0.2%	+2.8%	+2.0%
4/13	11:00	小売売上高(前年比)	2月	-0.9%	+1.6%	+7.7%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(4月14日～4月20日)

USD/ZAR: 16.400～16.700
ZAR/JPY: 8.50～8.80

向こう1週間の南ア・ランド相場は、頭打ちから、方向感を欠いた横ばいを予想。上述④～⑥のランド押し上げ要因には、特段の目新しさはないものの、現在までに材料としてすっかり消化されたようにも思えない。④は、引き続き市場の利上げ期待(向こう12ヵ月で+215b.p.程度の追加利上げを織り込み済)は行き過ぎの感が強いものの、ランドが材料視するのが利上げ期待の「正誤」よりも利上げ期待そのものである点に議論の余地はなからう。⑤は、相変わらず遅々とした歩みながら、周波数帯入札の成功や与党アフリカ民族会議(ANC)人事などにラマポーザ大統領の与党内掌握力の強化を読み取ることができた。⑥の商品価格動静も、燃料純輸入国である南アにとっては「諸刃の剣」と言えるが、原油価格が天井を打って大幅に反落する一方で、南ア主要輸出産品である貴金属(金など)・産業金属(銅など)が高止まりしている事実は、ランドにとっては純粋に好材料と読めただろう。ただ、これだけの材料だけで、例えば対ドルで14.0や13.4といった直近高値水準を次々と上抜けていくようなランド続騰は見込み難いように思われる。また、この間のランド高の推進力が、対円での新値更新(=円安)にあったとしたら、今後のランドの方向感にも円相場動向が大きく影響するはずだが、その点も、足元方向感の継続よりは、一旦の調整(円反発)の方が見込み易いように思われる。金利差拡大や本邦経常収支悪化など、円を売るに十分な材料があることは認めるものの、僅かひと月余りで対ドルで8%にも及ぶ円安進行には違和感も強い。とりわけ、日本の物価は、もはや「かつての新興国以下」まで落ち込んでいると感じるが(注)、「安いことこそが善」という精神性が、自らの賃金上昇を阻んでいるかもしれない構図を、一度、立ち止まって見つめ直すタイミングがあっても良いのではなかろうか。

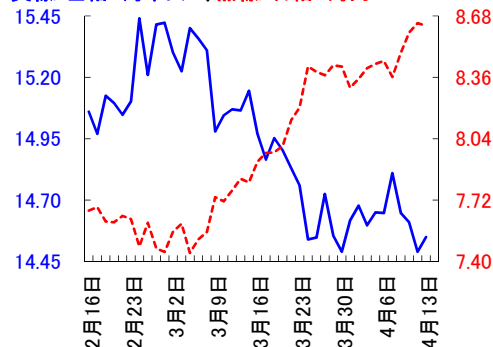
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
4/14	9:30	鉱業生産(前年比)	2月		-0.1%	+0.1%
4/20	8:00	CPI(前年比)	3月		+5.9%	+5.7%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

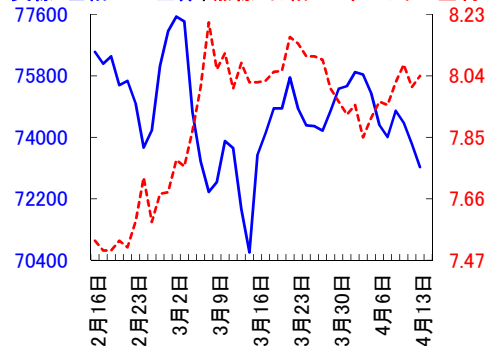
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.25%
長期金利(10年スワップ)	4月13日	8.040%
株価指数(JSE全株)	4月13日	73128.65
成長率(GDP/前年比)	Q4	+1.7%
経常収支(ZAR)	Q4	+120bn
失業率	Q4	35.3%
消費者物価(前年比)	2月	+5.7%
小売売上高(前年比)	2月	-0.9%
製造業生産(前年比)	2月	+0.2%
鉱業生産(前年比)	1月	+0.1%
貿易収支(ZAR)	2月	+10.6bn
金価格(ロンドン17:00)	4月13日	1981.01

(注) 1ヵ月で8%の円安は、単純に考えて、国外から見た日本のモノ・サービスの値段が、1ヵ月で8%安くなったことを意味する

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。